

令和 2 年 6 月 1 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03018

研究課題名(和文) 15・16世紀における少弐氏の総合的研究 日朝関係史と九州政治史の視角から

研究課題名(英文) A comprehensive study of Shoni clan in the 15th and 16th centuries

研究代表者

伊藤 幸司 (ITO, Koji)

九州大学・比較社会文化研究院・教授

研究者番号：30364128

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、15～16世紀の北部九州地域で活動した少弐氏について、日朝関係史と九州政治史という2つの視角から総合的に考察した。近年、16世紀九州戦国大名のアジア交易に注目が集まっているが、その歴史的前提としての15世紀の状況がやや等閑視されてきた。本研究は、15世紀の状況も重要視しつつ、少弐氏のライバルであった大内氏の事例等とも比較検討することで、少弐氏の総合的考察をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

少弐氏は、鎌倉期以来、北部九州における名門の武家として君臨していた。しかし、15世紀以降、大内氏や大友氏の擡頭により、少弐氏の政治的存在感は徐々に低下した。しかし、15世紀の段階では、北部九州地域において少弐氏は相応の地域権力であり続け、朝鮮に対しても通交貿易を行っていた。北部九州地域における少弐氏の消長は、そのまま少弐氏の朝鮮通交の実態と連動していた。近年、国内史と外交史との接続が叫ばれるが、少弐氏はその有効な素材を提供してくれるのである。

研究成果の概要(英文)：This study examined Shoni clan who was active in the northern Kyushu region in the 15th and 16th centuries. In particular, I focused on two issues: the history of Japan-Korea diplomacy and the political history of Kyushu. In recent years, attention has been focused on Asian trade of Sengoku daimyos in Kyushu area in the 16th century. On the other hand, there is little research on Asian trade conducted by Kyushu Daimyos in the 15th century. This study emphasized the context of the 15th century. Then, I compared it with the case of Shoni clan's rival Ouchi clan.

研究分野：東アジア交流史

キーワード：少弐氏 朝鮮 外交 九州 大内氏 博多

## 1. 研究開始当初の背景

近年、15～16世紀における地域権力の実態解明が急速に進んだ。とりわけ、関東地域を中心とするエリアでは、後北条氏のように広域支配をする地域権力はもちろん、非常に小規模な領主レベルに至るまで専論が存在している。一方、西国にかかる研究も相応に発信はされているが、総じて西国の地域権力の研究は立ち遅れている。

東国と西国とでは、地域権力のおかれた環境がかなり異なる。環境の違いとして挙げられる要素はさまざまあるが、申請者がその最たるものとして考えているのは、海を隔てた異国との交流の有無である。この対外関係という要素は、境界を超えた人・モノ・情報の交流によって、経済・文化の側面のみならず政治的な場面にも大きな影響を及ぼしていた。西国を考える上で、対外関係という視点は、東国とは異なるイメージを発信するためにも非常に重要となる。

近年、西国の研究のなかでも、鹿毛敏夫氏が精力的に発信しているように、豊後大友氏に代表される九州戦国大名のアジア交易を重視する視角がある。この視角自体は、申請者の方向性と重なるものの、次の点で物足りなさを感じている。すなわち、クローズアップされる時期が16世紀中葉以降に集中しており、それ以前の動向に触れられることはあっても部分的に過ぎないという点である。鹿毛氏が重要視する16世紀中葉以降は、大友氏の南蛮貿易の最盛期に相当し、大友氏を主軸に研究を進める鹿毛氏がその時期に注目するのはやむを得ない。しかし、西国の地域権力の外交活動自体は、15世紀から活発におこなわれている。15世紀という歴史的前提があってこそ、16世紀の状況が登場するのであり、15世紀の状況も重視した研究は不可欠である。

申請者は、これまで西国の地域権力の特質を考えるために、15～16世紀における周防大内氏を素材として研究の蓄積を続けてきた。申請者が大内氏に注目した理由は、当該期の西国の覇者として君臨し、対外関係のみならず、中央の情勢にまで大きな影響を与えた大内氏の実態解明なくして、西国の地域権力の特質は明確にできないと考えたからである。なお、大内氏のありようを西国の特質として相対化するためには、大内氏のライバルとして中世日本最大の国際貿易港・博多をめぐって抗争を繰り広げた豊後大友氏・少弐氏・対馬宗氏との対比が重要であると考えている。このうち、北部九州において重要な存在の一つである少弐氏については、九州政治史の分野において鎌倉・南北朝期の少弐氏をあつかった川添昭二氏(『九州中世史の研究』吉川弘文館、1983年)や、室町前期の動向を扱った本多美穂氏(「室町時代における少弐氏の動向 - 貞頼・満貞期 - 」『九州史学』91号、1988年)の研究しか主要なものがない。さらに、対外関係史の分野に至っては、少弐氏が活発に朝鮮通交を展開していたにもかかわらず、専論すらないのが実情である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、15～16世紀の北部九州地域で活動した有力な地域権力・少弐氏の実態を、日朝関係史と九州政治史という2つの視角から総合的にあきらかにすることである。少弐氏の朝鮮通交の実態を見極めるのとともに、日本国内における動向も注視することで、日朝関係史と九州政治史の接続をねらう。近年、16世紀九州戦国大名のアジア交易に注目が集まっているが、その歴史的前提としての15世紀の状況がやや等閑視されている観がある。本研究は、少弐氏を素材とすることで、16世紀のみならず15世紀の状況も重要視しつつ、申請者が研究の蓄積を重ねてきた大内氏の事例等と比較検討することで、西国の地域権力の特質をもあぶり出すことが可能となる。

## 3. 研究の方法

本研究の具体的な研究活動は、以下の5本柱を想定している。

### (1) 九州政治史における少弐氏の動向

日本国内の史料から刊本・未刊本を問わず、15～16世紀における少弐氏が発給・受給した文書、および少弐氏が登場する関係史料を博搜する。少弐氏の発給文書については、太宰府市史編集委員会編『太宰府市史 中世資料編』(太宰府市、2002年)に少弐氏花押集と「少弐氏発給文書目録」があるため、この目録に沿った形で史料の収集をおこなう。さらに、太宰府市史編集委員会が作成した「少弐氏関係文献目録(増補訂正版)」にもとづき、少弐氏関係の論文や研究書の収集にもつとめる。

### (2) 日朝関係史における少弐氏の動向

『朝鮮王朝実録』から関係史料の抽出をおこない、そのデータベース化をする。さらに、韓国側の文集に登場する少弐氏関係史料にも注目する。韓国側の文集には、日本側通交者の記事が散見されるからである。ゆえに、朝鮮文人の詩文集に登場する少弐氏関係史料をすべて抽出し、『朝鮮王朝実録』の記事や日本側の国内史料との照合をおこなう。詩文集は、『韓国文集叢刊』シリーズを使用する。

次に抽出史料の詳細な考察をおこなう。『朝鮮王朝実録』『韓国文集叢刊』から抽出した記事のなかでも、少弐氏名義の外交使節として登場する人物名をチェックしていく。とくに、禅僧の名前が登場する場合は、その禅僧がどのような素性の人物かを可能な限り追究する。その際、同時代の禅宗語録史料を博搜する必要がある。

(3) 少弐氏の事例を大内氏・大友氏などと比較検討しつつ、西国の地域権力の特質をあぶり出す。

(1)(2)の総括的な成果を受けて、少弐氏の事例を大内氏・大友氏などと比較検討しつつ、西国の地域権力の特質をあぶり出す作業をおこなう。なお、その際、少弐氏の外交活動の拠点となっていた国際貿易港博多の動向も加味しながら考察する。

#### 4. 研究成果

本研究の成果を要約すると以下の通りである。

少弐氏は、15世紀前半、北部九州地域において一定程度の勢力を維持していた際は、独自の朝鮮通交を展開していた。しかし、北部九州地域での勢力が減退し、さらにかつての家臣筋である対馬宗氏のもとに庇護される状況になると、少弐氏の通交名義は対馬宗氏の下で活用されるようになる。少弐氏の外交使節は、朝鮮から少弐殿使と呼称され、大内氏と同様、巨酋使としての扱いを受けたため、対馬宗氏としても非常にメリットのある通交名義であった。とりわけ、16世紀には少弐氏の通交名義は対馬宗氏によって縦横無尽に活用された。例えば、対馬宗氏の下には少弐「政尚」名義の凶書と木印が所蔵されており、宗氏にとって少弐殿使名義の使送は容易なことであった。対馬宗氏は、三浦の乱などで朝鮮通交貿易が危機に陥った際、朝鮮側の受け入れやすい少弐殿使などの深処倭名義の通交の受け入れの確認から開始させた。宗氏が少弐氏名義の偽使を頻出させていることを考えれば、実際に朝鮮通交を展開する大内氏名義の偽使よりは、もはや朝鮮通交を行う実力もなくなった少弐氏名義の偽使の方が宗氏にとってより利用し易かったのであろう。

このように、少弐氏の朝鮮通交は、少弐氏の北部九州地域における勢力の消長と連動しており、勢力減退後は、対馬宗氏の偽使派遣体制にとって非常に好都合な通交名義として利用されたと言える。

なお、上記の研究成果と連動するおもな研究成果としては、当該期の国際関係史の動向と課題をまとめ、中国海洋大学（青島市）のシンポジウム第一屆海洋論壇「海洋文明與東亞發展」でおこなった招待報告（報告内容は、「日本における前近代東アジア交流史の現状と課題」（『民族文化研究』（高麗大学校民族文化研究院）第77号、2017年に掲載）や、少弐氏の外交活動の拠点となった国際貿易港博多の概要を考察した中世都市研究会博多大会2017における研究報告、西国諸氏の外交と室町幕府の外交を比較するなかで、西国諸氏の一つとして少弐氏のことも加味しながら報告した2017年度中世史研究会大会（名古屋市）における公開講演などもある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 伊藤幸司	4. 巻 180
2. 論文標題 港町複合体としての中世博多湾と箱崎	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 九州史学	6. 最初と最後の頁 33-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤幸司	4. 巻 77
2. 論文標題 日本における前近代東アジア交流史の現状と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 民族文化研究（高麗大学校民族文化文化研究院）	6. 最初と最後の頁 359-380
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤幸司	4. 巻 -
2. 論文標題 入明記 遣明使に不可欠な外交故実書	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 松園斉・近藤好和編『史料で読み解く日本史 中世日記の世界』ミネルバ書房	6. 最初と最後の頁 352-363
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 4件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 伊藤幸司
2. 発表標題 アジアのなかの国際貿易都市博多
3. 学会等名 日本都市学会第65回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤幸司
2. 発表標題 中世の「糸島」とアジア
3. 学会等名 2018年度九州史学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤幸司
2. 発表標題 日本における前近代東アジア交流史の現状と課題
3. 学会等名 第一屆海洋論壇「海洋文明與東亞發展」(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤幸司
2. 発表標題 アジアのなかの港市博多
3. 学会等名 中世都市研究会博多大会2017(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤幸司
2. 発表標題 西国諸氏の外交と室町幕府の外交
3. 学会等名 中世史研究会大会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤幸司
2. 発表標題 大内氏の菩提寺と東アジア
3. 学会等名 2016年度日本宗教史懇話会サマーセミナー
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 伊藤幸司
2. 発表標題 港町複合体としての中世博多湾と箱崎
3. 学会等名 2016年度九州史学研究会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 伊藤幸司
2. 発表標題 東アジア交流史史料としての入明記のポテンシャル
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会第1回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 伊藤幸司、日比野利信ほか22名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 219
3. 書名 アジアのなかの博多湾と箱崎	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----